



SSKP

はばただより

vol.140

社会福祉法人おおぞら会



サポートネットあすは



あすは kids



工房時



野ざきの家

つむぎの家



はばたけ



今年もよろしくおねがいします！

おおぞら会一同

新年、明けましておめでとうございます

社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

2020(令和2)年のお正月、皆様どの様にお過ごしでしょうか。この年も、皆様にとって幸多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

自分の年齢のせいでしょうか、このところ一年一年が本当に短く感じられ、「光陰矢のごとし」という言葉を違和感なく受け止めるようになりました。自分自身も、今年も一日一日を大切にしてい、その職分を果たしたいと願っています。

2019年を振り返りますと、ラグビーのワールドカップで優勝した南アフリカチーム初の黒人キャプテン、コリシ選手の優勝直後の挨拶が忘れられません。

「様々な背景、人種が一つになって優勝できた。一つになれば目標を達成できると示せた。」(2019年11月3日朝日新聞朝刊記事)試合直後の熱狂の中で、私は彼のこの短いスピーチを聴き、胸が熱くなりました。

南アフリカという国の直面している困難な状況や、コリシ主将自身の困難な生い立ちのことなどを重ね合わせ、南アフリカが優勝できて本当に良かったと思えましたし、こんな状況の中でこの様なことを語れる彼の知性にも脱帽しましたし、ラグビーというスポーツそのものにもあらためて敬意を表したくなりました。

ラグビーの日本代表チームもベスト8まで勝ち進むことができ、彼らもまた「ワンチーム」という合い言葉を掲げて試合に臨み、南アフリカとは事情は異なりますが、様々な人種、宗教、国籍の人達が集まってチームを作り上げており、リーチ主将のリーダーシップが高く評価されていました。

さて、話は変わりますが、私たちの社会福祉法人おおぞら会は創立以来22年を経過しました。利用者の皆さんや保護者の皆さん、また職員の皆さんや応援して下さる多くの皆さん、きっと「当法人への思い」はそれぞれに微妙な違いはあると思います。お互いの微妙な違いはあっても、**＜一人ひとりの利用者さんが、地域社会と関わりながら、できるだけ「普通の暮らし」ができるように支援する＞**という共通の目標に向けて、「微妙な違い」を乗り越え、足らないところを補い合い、力を合わせて頑張りたいと思うのです。

この地域に無くてはならない社会福祉法人の一つとして、さらに成長すべく、皆で力を合わせて前進したいと思うのです。私にはリーチ主将のような力はありませんが、皆さまに支えられて前進したいと思うのです。

今年もまた皆様の変わらぬご支援を賜りますよう、せつにせつにお願い申し上げます。



野ざきの家

【小規模多機能型居宅介護】



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

「小規模多機能型居宅介護」…まだまだ耳慣れないこの事業は、簡単に言うと「高齢者の地域での暮らしをまるごと支える施設」です。できればずっと住み慣れた家で暮らしたい…しかし高齢になると、地域で生活していく中で、困りごとが少しずつ増えてきます。また、高齢になるにつれて複数の疾患を抱え生活をされる方が多くなります。デイサービス、ヘルパーさん、ショートステイ…など、それぞれ事業所が違っていると調整に手間取りますが、それがひとつでできるのが野ざきの家です。その特徴を活かし、日々皆さんの様子を伺ったりお宅を訪問する中で、地域にはどんなニーズがあり、どんな支援が必要なのかキャッチし、柔軟に対応できるようにしていきたいと考えています。

さて、野ざきの家では、昨年の3月より新入職員として男性の常勤看護師が入職しました。「最期は自宅で」と望まれる方が増えてきている現状を考えると、専門的な視点をもってケアができる看護師の存在は心強いです。訪問看護ステーションとは違うので、当方での医療行為は出来ません。しかし、医師・訪問看護ステーションと連携をしていく上で、病状やケアについて介護スタッフにも分かりやすく伝えることができ、皆さんの安心した自宅での生活を支えることが期待できます。

国は「医療と介護の連携」を進めています。「住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせる」ことが実現できるよう、看護師がいることで医療との連携面で具体的な行動が可能となり、高齢化・多様化する時代の流れを掴み安定した事業展開することが地域貢献となると思います。大切なのは、“その方にあった支援”であり、それを構築できるように、体制を整え、方向性を定め、「出来ること」「出来ないこと」を明確にした上で、野ざきの家での連携の形を作りたいと思います。そしてまた、「次の5年・10年」を見据えた事業展開を考えていきたいと思います。

2019年12月1日現在、野ざきの家の登録者は、開設して初めて定員の20名いっぱいとなり、利用を希望して待機して下さっている方もいらっしゃる現状があります。地域にとって必要とされる事業所になるよう、日々の当り前を怠らないこと、送迎車の運転に気を付けること、訪問時に近所の方とお会いしたらご挨拶をする等々…、小さなことの積み重ねを忘れず、今年も毎日地域を駆け回りしたいと思います！

今年はオリンピックがあります。野ざきの家の利用者様は皆さん「2回目の東京オリンピック」となるようです。「東洋の魔女」のように、後世にも語り継がれるような活躍を期待します。チケットは当たりませんでした…野ざきの家のテレビで皆さんと楽しみたいと思います。

管理者 齋藤 貴彦



工房 時

【就労移行支援・就労継続B型】

工房時と連携している「三鷹市障がい者就労支援センター かけはし」が進めている事業の一つに、『短時間就労』というものがあります。アンケートで調査したところ、週20時間未満の労働にニーズがあることが分かりました。「週20時間以上の就労は難しいけれども、短時間ならやってみたい」「B型などの通所施設で仕事をしながら、短時間の一般就労をしてみたい」といった声に応えたものです。工房時からは2名の所員がチャレンジすることになりました。週に1～2時間の超短時間労働ですが、お二人とも外部での新しい仕事に、不安と期待の入り混じった気持ちを持っていたようです。



お一人は女性所員のKさんです。仕事の内容は保育園で子供たちが使った簡易ベッドの拭き掃除、エプロンや雑巾などの洗濯物干しです。就労前に業務内容を把握した上で、Kさんが作業しやすいように細かく手順を分けて行うようにしました。用具の準備、理解しやすい表示をする、物の置き場所を決めるなど、仕事をする上での環境を整えました。また工房時、かけはしの職員が順番でサポートに入るようにしました。Kさんは10月から働き始めていますが、「工房時でやってきた仕事が役に立っている。慣れてきたら楽しくなってきた」といった感想を話していました。



もう一人は男性のSさんです。仕事は高齢者施設内にある公園の草刈り、植栽です。最初は工房時の就労支援担当職員といっしょに行いました。工房時やアクティビティセンターはばたけで施設の外回りの清掃、草刈りなどをやっていたことがあり、鎌や熊手、竹ぼうきを上手に扱うことができていました。今後は少しずつSさんに任せられるようにし、職員の付き添いは少なくしていく予定です。Sさんは「雑草と植えてある植物の区別が難しい。広くて大変」と言いながらも、笑いながらうれしそうに話していました。

お二人とも外部での実習は何回か経験してきましたが、福祉施設以外で働いて報酬を得るのは初めてです。当然最低賃金以上の報酬になるわけで、その面でお二人にとってとても大きなことだと思います。また報酬だけではなく、短時間であっても一般就労をすることで成長することもあるでしょう。超がつく短時間労働ですが、社会に出て働く第一歩になりました。この仕事を続けていくことでお二人がどのように感じ、また考えていくのか、今後どのように展開していくのか・・・期待を持って見守りたいと思います。

(管理者 立野信行)

アクティビティセンターはばたけ【生活介護事業】

地域に住む高齢者の方々が中心に参加している「いきいきボッチャ」の活動にはばたけのメンバーも参加しています。最初はお互いに様子を伺っている様子がありましたが、講師の方や参加者の方々のあたたかい雰囲気もあり、2 回、3 回と回数を重ねるうちに、職員がコミュニケーションのサポートに入らなくても、一緒にボッチャを楽しんでいる姿が見られるようになりました。



また、はばたけのメンバーが公園の清掃をしている時に、顔と名前を覚えてくださったボッチャ参加者の方が「〇〇さん！頑張ってるね！ありがとう！」と声をかけてくれ、一息つきながらほっこりする時間を過ごすといった場面もありました。ボッチャの活動を通して知り合った参加者の方々とは、地域の中で会った時など、活動以外の場所でも挨拶やコミュニケーションをできるような関係になりました。

ボッチャはパラリンピックの種目にも登録されているれっきとしたスポーツではありますが、その楽しみ方は様々。回を重ねるごとに少しずつコツを覚え、上達していることに喜びを感じているメンバーもいれば、ボールを投げた後の歓声や、参加者との関わりを楽しみにしている人、お茶やお茶菓子を楽しみにしている人もいます。参加しているはばたけのメンバーや、地域の方々の楽しそうな表情を見ていると、地域の中に受け入れてくれる方たちが居て、一緒に活動を楽しめるということは、とても喜ばしいことだと感じます。簡単なのに奥が深い、ボッチャを楽しむことを通して地域の方々と関わり、あたたかい関係を育める場所を大切にしていきたいものです。



2013 年より毎年開催してきた「はばたけ秋まつり」。今年は、台風 19 号の接近により、やむを得ず中止としました。関東広域に今もその爪痕を残し、自然災害の恐ろしさの記憶を呼びさます出来事でした。開催に向けて、ご尽力いただいた関係者の皆様には、深く感謝いたします。

「延期はしないのですか？」との声もいただきましたが、スティー出演者、模擬店関係者、当日ボランティア、おおぞら会後援会…など、大勢の方の力を結集して成り立っているおまつりだけに、予備日を調整する難しさがあります。また、この一日のために、こんなにもはばたけを応援してくださっている方々がいることは幸せなことです。

以前、秋まつりにお客さんとして来られたご近所の方から、利用者が歌やダンスを楽しんでいる姿を見て、得意とする合唱を通して交流したい、というお話をいただきました。初回の打ち合わせから 2 年を経て、今年その方が所属する合唱「ガーデンクラブ」さんとの音楽交流会が実現しました。

地域の中のはばたけとして、顔を顔を合わせた交流がしたいと地道に取り組んでいることが、またひとつ実ったのでした。来年、はばたけ秋まつりは開催します！今度とも、ご協力よろしく願います。

(支援員 武石 将貴)

サポートネットあすは

《移動支援・同行援護・行動援護・居宅介護事業》

ここ数年、グループホーム入居などの生活の変化で、ガイドヘルパーの利用を再開された方が何人かいらっしゃいます。親御さんが元気なうちは休日の外出も家族でと、あまりガイドヘルパーを利用されていなかった方や、「うちの子は、ガイドヘルパーとお出かけなんて難しいんじゃないかしら」「迷惑をかけてしまうのではないかと」これまで躊躇されていた親御さんもいらっしゃいます。しかし、親御さんも高齢になり、グループホームの入居などを機に、“家族以外の人に託していく”覚悟のようなものをしていかれて、再開につながっています。

私自身もそういった方々のガイドに伺うことがありますが、やはりガイドヘルパーと慣れない街に外出をすると刺激が多くお疲れにはなるようですが、いろいろな人や環境に触れ、公共機関を使ってお出かけすることで経験の幅も広がり、充実した一日になっている様子が伺えます。そのことで、ご家族にも少しずつ安心していただけるようになっています。普段のコーディネート業務はデスクワークですが、積極的に現場にでることで、利用者の外出の重要性、そしてこの事業の意義を再確認しています。

(職員 松本 良太)



あすは Kids

《放課後等デイサービス》

今回は、あすは Kids 職員やボランティアさんの日々感じていることや思いを紹介します。



*子どもたちの支援を始めて10年が経ちました。これからも、子どもたちの「楽しみ！」に応えていきます *子どもたちと活動する事で新しい発見ができる一方で、より良い支援の仕方を日々模索しています *62歳からこの仕事を始め、はや8年。子どもたちにはいつも鍛えられています *一人一人異なった障がい、個性をもつ子どもたち。それぞれにあわせた支援をする難しさを感じています *半年以上になりました。公園の池で笑顔満開に遊ぶ姿等、子どもの楽しそうな笑顔に癒されます。大変な事もありますが、子どもの成長にやりがいを感じます *日々成長する子どもたちの姿を見られて嬉しいです。*月に2~3回ですが子どもたちと一緒に楽しんでいます。成長する姿を見るのが楽しみです。

活動を作る中では楽しい事ばかりではなく、子どもとの接し方や自身の支援について迷い悩むこともあります。そんな時は「その子にとって大切な事は何か」を考え試行錯誤しながら探り、話し合いをしています。子どもたちと一緒に職員も、日々成長していけるよう努めていきます。今年もよろしくお願いいたします。(支援員 梅田亜希)



おおぞら会後援会ニュース

活動の
ご報告

毎年秋になりますと、法人・後援会としても地域のイベントに出ていく機会が増えてきます。はばたけの秋祭りの中止は残念ではございましたが、特別支援学校や野崎八幡のお祭りなど、例年同様に出店、参加をしています。今回は、2年ぶりに福祉バザーへの参加をしてみました。



11/17 福祉バザー 販売の様子

後援会でバザーの出店、工房時・はばたけで自主製品の販売を行いました。会場の中央防災公園・元気創造プラザは、お天気にも恵まれて多くの方にご来場いただきました。利用者様、ご家族様のご協力により、模擬店も大繁盛の一日となりました。誠にありがとうございました。

おおぞら会後援会
会長 吉野 壽夫

★後援会新規ご入会・ご更新（敬称略）

個人93名、団体3社から、ご入会・ご更新の手続きをいただきました。
ありがとうございました。

★後援会へ寄附（敬称略）

個人4名からご寄附をいただきました。
ありがとうございました。

★後援会経由 法人・各事業所へ寄附（敬称略）

個人7名、法人2社からご寄附をいただきました。
ありがとうございました。

（以上、R1.7/23～11/30集約分）
皆様 ありがとうございました。

*** 後援会へのご入会・ご更新をお願いいたします ***

年会費 1口 個人…2000円 団体…10000円

information

支援スタッフ募集！

採用条件、労働条件等の詳細については、おおぞら会本部へ直接お問い合わせいただくか、またはハローワークの情報もしくは東京都福祉人材センターのホームページ「福祉のお仕事」www.fukushi-work.jp/、または「ジョブメドレー」で検索してご確認できます。

人と関わるのが好きな方
タフでガッツのある方
大歓迎です！



★日中お時間のある方★

- ・障害がある人たちの日中の作業活動（散策・創作・運動など）
- ・障害のある子どもたちの放課後の遊び支援
- ・送迎車の運転・添乗（短時間勤務）
- ・調理補助

★休日や夜間帯で効率よく時間を活用したい方★

- ・グループホームの宿直夜勤
- ・ガイドヘルプでのおでかけサポートや派遣事務
- ・高齢者のデイサービスや泊り

…それぞれ活躍できる現場があります！

法人のこと、施設のこと…わからなくて迷っている方は、
まずは見学からどうぞ。

おおぞら会本部

0422-30-5571（中野）まで

働き方いろいろ

正規職員・契約職員（常勤）
パート職員・アルバイト



社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|------------------------------------|---------------|------------------|
| ・ アクティビティセンターはばたけ （生活介護事業） | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 （就労移行事業・就労継続 B 型） | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野ざきの家 （小規模多機能型居宅介護事業） | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは （移動支援[居宅介護]事業） | 武蔵野市八幡町 1-6-1 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids （放課後等デイサービス） | 武蔵野市八幡町 1-6-1 | tel 0422-36-5151 |
| ・ ショートステイさくら （短期入所事業） | 三鷹市井の頭 4-22-6 | tel 0422-32-3234 |
| ・ つなぐなかまの家 （共同生活援助） | | |

高齢の母が入院をした。普段、病院にお世話人なることのない私にとっては、病院は少し新鮮な世界だ。見舞いで行く度ナースステーションをチラ見しては「申し送りの時間かな」とか、帰りたいと訴える患者さんに寄り添う姿を見ては「根気があるよな」と自分の仕事と重ね合わせて心でエールを送ったり…やはり看護師さんなど働く人に目が行く。ほんとうに忙しそうに動き、細かな対応をされていて、朝から晩、夜中まで…患者さんの体のケアはもちろん、話を聞き不安を和らげる。あらためてすごい仕事だなと思い、自分自身も身が引き締まる思いだった。さて、当の母はというと…手術の次の日にはすっかり元気になり、勝手に動いて看護師さんに叱られている始末。9 年ほど前に同じ箇所の手術を…二度目だったことを引き合いに出し、「これであと 9 年大丈夫ね」とうなずく姿に…あらためてすごいと思った。（いりくらあきこ）

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 【頒価 50 円】

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者：入倉暁子